

よ起第256号—1
平成29年12月5日

上淀白鳳の丘展示館
(株) 白 鳳
代表取締役 田 口 勝 蔵 様

米子市長 伊 木 隆 司

平成28年度「上淀白鳳の丘展示館」指定管理者業務評価書

施設名	上淀白鳳の丘展示館
施設所管課	淀江支所よどえまちづくり推進室
指定管理者名	(株) 白 鳳
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日 (1年目)

【モニタリング終了後の総評】

【施設所管課】

企画展や史跡活用イベント、上淀地区の他の施設との連携イベントなど、集客やサポーターの確保に努めてはいるが、まだまだ施設の持つ可能性を掘り下げることが出来るように感じる。さらに踏み込んだ管理等を求めたい。

【第三者評価】

適切に運営されており、向上に向けた努力が見られる。

彼岸花の里プロジェクト事業など、継続した来訪に繋がる取組みとして評価できるが、充分とは言えず、他の施設との連携策など、施設利用者増に向けたさらなる努力を求めたい。

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

上淀地区の他の施設との連携をとり、関心を寄せていただく企画等を実施し、引き続き集客に努めてください。

【第三者評価】

テーマを設けた企画展や、伯耆古代の丘公園を活用した体験学習事業、歴史考古以外の要素と組み合わせた事業など多様な事業展による集客に努めていることは評価できる。併設の施設との性格のギャップを埋めて連携をとることや、特徴を活かした専門性の高い取り組みをもってさらなる集客に努めてください。

平成28年度下期「上淀白鳳の丘展示館」モニタリング評価表 [平成29年6月]

施設名	上淀白鳳の丘展示館	
施設所管課	淀江支所よどえまちづくり推進室	
指定管理者名	団体名	株式会社白鳳
	所在地	米子市淀江町福岡1548-1
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	
選定方法	非公募	
施設の設置目的	郷土の歴史に関する市民の知識及び教養の向上に資する	
主な実施事業	上淀白鳳の丘展示館の運営	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	聞き取り調査
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	聞き取り調査
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	資料及び聞き取り調査
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	資料確認 施設案内等含め減少傾向が続いている
(2)利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	資料及び立ち入り調査
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1)保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料確認
(2)清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料及び立ち入り調査

(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料及び立ち入り調査
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料及び立ち入り調査
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	資料及び聞き取り調査
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	聞き取り調査
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	聞き取り調査
II サービスの質の評価 (25点)			
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	資料及び聞き取り調査
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	立ち入り調査
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	立ち入り及び聞き取り調査
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	資料及び聞き取り調査
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	資料及び聞き取り調査
III サービスの安定性の評価 (15点)			
1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	資料確認
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	資料確認
3 団体等の経営状況 (年度ごと)	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	B	資料確認

<p>【総評（所管課評価）】</p> <p>企画展や史跡活用イベント、上淀地区の他の施設との連携イベントなど、集客やサポーターの確保に努めてはいるが、まだまだ施設の持つ可能性を掘り下げることが出来るように感じる。さらに踏み込んだ管理等を求めたい。</p>	<p>合計点 (60) 点 / (100) 点 × 100 = (60)</p> <p>平均点 (3.0) 点</p>
---	--

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

項目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
開館日数	308	309	-1、99.7(%)	
施設利用者数	3,546	3,680	-134、96.4(%)	
施設稼働率	100	100	0、100.0(%)	
事業開催数	106	143	-37、74.1(%)	施設案内実績減

※2 事業収支

(1) 収入

項目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
利用料収入	602,450	640,830	-38,380、94.0(%)	
指定管理料	9,260,000	9,260,000	0、100.0(%)	
自主事業収入	115,142	138,220	-23,078、83.3(%)	
その他雑収入	7,569	11,050	-3,481、68.5(%)	実績減
合計	9,985,161	10,050,100	-64,939、99.4(%)	

(2) 支出

項目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
人件費	6,860,001	6,638,926	221,075、103.3(%)	
消耗品費	223,418	227,092	-3,674、98.4(%)	
光熱水費	1,108,473	1,180,423	-71,950、93.9(%)	
印刷費	61,770	195,912	-134,142、31.5(%)	広告媒体変更
広告宣伝費	269,629	223,963	45,666、120.4(%)	広告媒体の変更
業務委託費	378,000	318,600	59,400、118.6(%)	
その他	472,349	415,740	56,609、113.6(%)	
合計	9,373,640	9,200,656	172,984、101.9(%)	

※3 経営状況分析指標

項目	本年度〔平成28年4 ～3月〕 A	前年度〔平成27年4 ～3月〕 B	対比 A-B、A/B	備考
① 事業収支	611,521	849,444	-237,923、 72.2 (%)	実績収入減支出増
② 利用料金比率	0.060	0.064	-0.004、 93.8 (%)	
③ 人件費比率	0.732	0.722	0.010、 101.4 (%)	
④外部委託費比率	0.040	0.035	0.005、 114.3 (%)	前年度は税抜額
⑤利用者当たり管 理コスト	2,643.4	2,500.2	143.2、 105.7 (%)	
⑥利用者当たり自 治体負担コスト	2,611.4	2,516.3	95.1、 103.3 (%)	

①事業収支：(収入－支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができているかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度ごと下期に実施し、上期では行いません。)

項目	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	備考
①自己資本比率	48.0	48.1	46.8	45.1	46.8	
②流動比率	118.9	116.4	107.0	98.4	150.6	
③固定長期適合率	97.4	97.1	98.6	100.3	95.9	
④総資産経常利益率	-2.4	-0.6	-4.9	-4.0	-1.5	
評価	(以上の指標を参考に評価する。)					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率（\%）} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率（\%）} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率（\%）} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$60.9 = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	400	買掛金	400
受取手形	500	短期借入金	300
有価証券	200	流動負債合計	700
流動資産合計	1,100	固定負債	
固定資産		社債	300
建物及び構築物	200	退職給付引当金	200
土地	500	固定負債合計	500
投資有価証券	200	負債合計	1,200
固定資産合計	900	【純資産の部】	
資産合計		資本金	600
2,000		利益剰余金	200
		純資産合計	800
		負債純資産合計	2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

利用者数が前年度以下になる傾向について、伯耆古代の丘公園や淀江温泉施設との連携をとり、エリアの魅力を情報発信して、利用者増に努めるように指導した。

6 利用者アンケートの結果

展示物や職員による展示の解説、史跡の現地案内を評価するものが大部分であった。

展示物に対する評価も全般的に高かった。

設備のさらなる充実を求めるものもあった。